



市民の声を市政に反映

# 杉森ひろゆき

市議会議員ニュース

杉森弘之後援会広報委員会発行  
**767号** 2019年7月16日  
 〒300-1235 牛久市刈谷町 1-41-8  
 TEL・Fax : 870-0335  
 携帯 : 090-5587-7693  
 Mail : sugimori@max.hi-ho.ne.jp

# 市立の非正規保育士の処遇改善

## 幼保無償化

### 6月定例会一般質問 ①-D

杉森議員は6月20日、牛久市議会6月定例会で、①幼保無償化、②高等教育無償化、③職員採用における年齢制限の撤廃、について一般質問しました。今号では①のDを掲載します。

### 牛久市の努力をもう一步

【杉森議員の質問】保育士の平均給与は社会人平均より月約10万円低く、他方で、幼児の生命を預かる責任は重く、仕事量は多く、労働時間が長いなど、保育士の劣悪な労働環境が、全国で保育士不足を深刻化させています。牛久市では、2018年度から民間の正規雇用保育士に対する月1万5千円の上乗せ補助を実現し、2019年度からは民間の非正規雇用保育士に対しても労働時間に対応して上乗せ補助を実現しました。次のもう一步として、市立保育園の非正規雇用保育士の処遇改善を実現すべきではないでしょうか。

### 保育士確保に処遇改善が必要

【保健福祉部次長の答弁】牛久市の現状は、2016年度より保育士不足による受入れの制限を開始し、今年度は待機児童が発生している1歳児において12名の制限を行っています。

保育士の処遇改善については、2013年度より国・県の補助金や交付金によって処遇改善策が講じられており、牛久市でも2018年度より独自の貸金改善補助金の交付を行っています。

昨年度の離職者は3名で、施設からも、補助金があることで、退職を取り止めたり、就労意欲の向上になっているとの意見もあり、保育士確保には効果があると思っています。

### 来年度の会計年度で改善

【総務部長の答弁】公立保育園の非常勤職員の処遇については、来年度から実施する会計年度任用職員の制度設計の中で検討しています。

【杉森議員の質問】幼保無償化の負担は、初年度（半年分）だけ全額国負担で、その後は公立の幼稚園、保育所などは全額市町村負担であり、それ以外の私立施設、認可外保育、病児保育、ベビーシッターなどのサービスは国1/2、都道府県と市町村が1/4ずつとなっています。

他方で、地方消費税率は、現在の消費税率8%のうちの1.7%から10%のうちの2.2%となり、この1.7から2.2の増加の割合(2.2/1.7=129%)が消費税増税による税収増の割合で、単純に考えれば消費税による税収は現在の129%になるともいわれています。その他、これまでの市の単独予算による関連事業の負担軽減などを含め、市の財政への影響はどうでしょうか。

### 無償化で市の負担11.7億円増

【保健福祉部次長の答弁】年間の市の負担額増減は、民間保育園は1億3,148万円増、公立保育園は2,174万円増となります。幼稚園は、新制度の幼稚園は504万円増、私学助成の幼稚園は464万円減、公立幼稚園は443万円増で、全体として11億6,733万円増という結果となりました。

2019年度は臨時交付金として全額が交付されますが、2020年度からは民間の施設は、消費税増収分を活用して市が4分の1負担、公立の施設及び無償化による負担増分については、地方交付税の対応となっており、負担分を基準財政需要額に算入する予定ですが、未だ詳細については判らない状況です。

# 家庭内暴力、止める方法あります

3/6

斎藤環・筑波大教授に聞く

朝日新聞デジタル 6/20 (聞き手・中村靖三郎)

## 通報や避難の前に、予告する

### ——通報や避難の手順は？

通報や避難をする際は、いきなりではなく、予告段階を設けてください。「今度やっちゃったら、通報しますよ」「避難しますよ」と予告しておく。これで止まるケースもたくさんあります。その瞬間は怒っても、手は出て来ない。本人は、「親がそこまで嫌がっているとは思わなかった」とびっくりします。逆に言うと、それまできちんと拒否されてこなかった人が多いということです。拒否のメッセージとして、まずは通報・避難の予告をしてください。

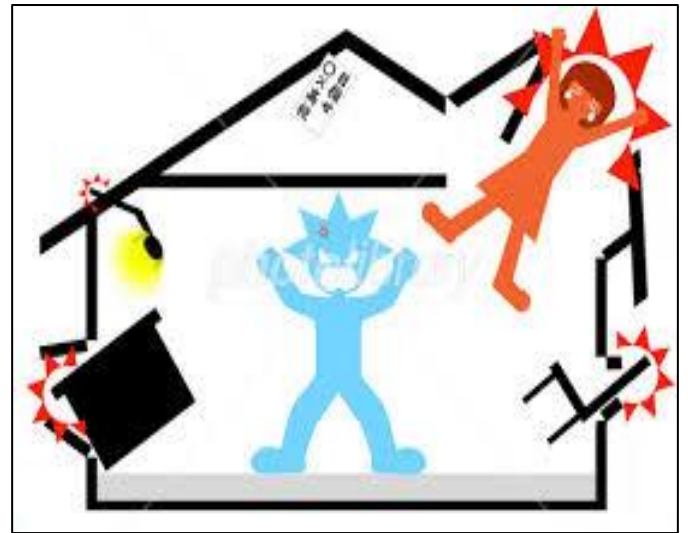
一番やってはいけないのは、「暴力を受け入れること」です。かつて、カウンセラーや支援者の中で、全てを受け入れる「全受容」ブームというのがあった。「暴力は愛を持って受けとめましょう」という考え方ですが、これは間違っています。根拠もありません。結果として、ほんの一握りの人でうまくいったケースがあり、すべて受け入れたら、本人が反省し暴力をやめてくれた、という実例があるようです。ただ、それよりもはるかに多い割合で、受け入れた結果、トラウマになり、文字通り心身ともに傷だらけになって、耐えられなくなって、子殺ししてしまう、というケースがありました。

## 暴力を振るわなくてすむ状況を作る

私の考えは、引きこもりやその苦しさに関しては、受容が基本です。ただし、すべての人は暴力を受けない権利がある。なぜか親子関係になると、このルールが適用されなくなるという不思議な現象が起こっています。子からの暴力に対しても、毅然として拒否をしてください。

### ——「暴力を封じたら、別のところで暴発する」という心配はないでしょうか。

それはないと断言できます。暴力はエネルギー保存則が適用できるものではない。むしろ



暴力を振るわない状況にするほうが、早く安定します。暴力を振るわなくてすむ状況を作ってください。

### ——どうすればいいですか？

第一は、拒否です。「簡単じゃないか」と言われるかもしれませんが、これが一番難しい。なぜか。両親、特に母親には、非常に強い罪悪感があるからです。「うちの子がこんなに苦しんでいるのは、私のせいだ」「私は罰せられるべき人間だ」という思いがあり、つい暴力に身をさらしてしまふ。「自分に対する罰だから、受けなくてはいけない」と無意識に思って断れない、ということがしばしば起こります。

しかし、それは非常に不健全な関係です。もっと普通の関係を作り直してください。暴力は受けなくていい関係です。

暴力には一瞬の爽快感があるのも、また問題です。一瞬の爽快感がある行為は、中毒になりやすい。殴ってしまうと、ちょっと気持ちが軽くなる。もちろん、その後反省するのですが、このはかない爽快感を求めて暴力がエスカレートしていく。

拒否が難しい、もう一つの理由に、日本の親子関係では「拒否」はほとんど使われず、「禁止」が使われることがあります。「暴力を拒否してください」というと、ほとんどの親は子どもに「暴力はダメですよ」と言ってしまう。

(つづく)